在宅酸素療法　　2014.5.16

授業プリント（A4一枚）の空白部分と対応しています。（参考：パンフレット、教科書p.379）

赤色の文字は、先生が重要・強調していた部分です。

オレンジ色の文字は、細かい部分なのでテストには出ないと思われますが、大事だと思う部分です。

在宅酸素療法の意義・目的・効果

在宅酸素療法：メインは臓器を守る・息切れの軽減・寿命を延ばす

★健康保険適用

★HOT：home oxygen therapy

【意義】

・療法を行いつつ社会活動も持続する

・療養中も趣味や生活習慣を持続する

・住み慣れた環境での療養

【目的】

・安定した病態にある慢性呼吸不全患者に対して、家庭での酸素吸入を行うことにより低酸素血症の改善を図り、生命予後の延長、社会復帰、およびQOLの向上

在宅酸素療法メリット

１．呼吸困難の改善

２．食欲の増進（→体重の増加）

３．不眠の改善

４．頭痛がなくなる

５．喘息発作の軽減

６．動悸がなくなる

【効果】

①ADLの改善

②低酸素血症の改善

③生存率の改善

④入院回数の軽減（急性憎悪の減少）

⑤QOLの改善

在宅酸素療法の対象患者・適応基準

【対象患者】

高度慢性呼吸不全例、肺高血圧症、およびチアノーゼ型先天性疾患

【適応基準】

慢性呼吸不全例のうち対象となる患者は、動脈血酸素分圧55㎜Hg以下（パルスで88）の者、および動脈血酸素分圧60㎜Hg以下（パルスで90）で睡眠時または運動負荷時に著しい低酸素血症をきたす者であって、医師がHOTが必要であると認めた者。

在宅酸素療法の機器　　　　　空気→　　装置　　　→酸素　（　　　で空気はせき止められ、酸素だけ排出される）

HOTには酸素濃縮装置・液体酸素装置・携帯用酸素装置などが必要

基本は病院が患者さんに貸し出す　ちなみに…1割負担7080円/月　3割負担　23000円/月くらい

在宅酸素療法の仕組み

HOT導入の流れ…検査・問診→処方の決定→在宅療養の準備→在宅療養の開始→毎月の指導

在宅酸素療法の注意点

★喫煙はダメ、火気・水気・湿気・直射日光は避ける

酸素濃縮装置……換気の良い場所に置く、火気から2メートル以上離す、専用の電源を使用（たこ足配線×）、吸引口・排気口の前後左右は15㎝以上離す

液体酸素装置……通気性があり高温にならない場所、しっかりとした土台の上に置く、火気から２ｍ以上離す

携帯用酸素装置…通気性、室温40℃以下keep、転倒しないように固定、火気・可燃物は避ける

災害対応

災害時で営業拠点に電話がつながらない場合でも、コールセンターへ自動転送する仕組み。（すぐ対応）

全国から物資、人員を導入

D-MAP(災害対応支援マップシステム)の活用により、ボンベの数・家の場所などで確認

人工呼吸器の概要

NPPVとTPPVがある

①NPPV：非侵襲的陽圧換気療法（鼻マスク、フェイスマスク）

・鼻や口にマスクを取り付け、そこから空気を送り込む方法。マスクは取り外し可能で＆会話可能

・約1800例

HOTは、O2不足を補うもの

NPPVは、CO2がたまるのを吐き出すもの

・主に神経筋疾患の患者

・体内から炭酸ガスを取り除く

②TPPV：気管切開下人工呼吸療法（気管切開が必要）

・気管に直接チュ－ブを挿入しそこに人工呼吸器を装着して、空気を送り込む方法

・約1000例

・肺結核後遺症、肺気腫などの患者

睡眠時無呼吸症候群の概要

※睡眠時無呼吸症候群：睡眠中に何度も無呼吸や低呼吸が繰り返される病気

【原因】上気道の閉塞によって無呼吸・低呼吸が起こるために発症

【症状】日中の眠気や倦怠感、いびき、不眠・中途覚醒、起床時の頭痛・頭重感、ＥＤ，夜間頻尿

【合併症】高血圧、不整脈、脳血管障害、虚血性心疾患、耐糖能以上、胃食道逆流症

【影響】交通事故、産業障害、仕事上のミス、学業不振

【治療】

①生活習慣の是正（睡眠中の体位の工夫、規則正しく十分な睡眠時間、減量、喫煙、飲酒や精神安定剤の制限）

②経鼻的持続陽圧呼吸療法装置（nasal CPAP）

③手術（口蓋垂軟口蓋咽頭形成術、鼻内手術）

④口腔内装置による治療（歯科装具）

⑤その他（薬剤、nasal CPAP以外の呼吸療法）